

2022年度 日本工学院専門学校											
A I システム科											
卒業制作											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	180	単位	6
担当教員	岩堀 信一			実務経験	有	職種	システムエンジニア／プロジェクトマネージャ				
担当教員紹介											
担当教員は、主に金融分野・公共分野におけるシステム開発にシステムエンジニア・プロジェクトマネージャとして従事。提案、要件定義、開発、テスト、運用のシステムライフサイクル全般に渡る実務経験有り。米国PMI認定PMP、AWS認定ソリューションアーキテクト-アソシエイト、日本ディープラーニング協会G検定等の資格を有する。											
授業概要											
グループで制作物を決定し、制作に取り組む。先ず、タスクの洗い出し・役割分担・スケジューリングを行う。続いて、スケジュールに沿って制作活動を行う。制作活動中、定期的に会議体を設け、進捗管理・リスク管理・課題管理などを行う。最後にグループ単位での発表を行い、最終的には2月に実施予定の卒業展で制作物のパネル展示およびデモ展示を行う。また、代表チームは発表（10分程度）を行う。											
到達目標											
仕事をする上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、授業で学んできたことを仕事に活かせる技術力にし、AI分野の技術動向を知り、自分たちで活用できるようになり、さらにプロジェクトマネジメント能力またはプロジェクトに適切に協力して推進させることができるようになることを目標とする。											
授業方法											
これまで身につけてきた知識と技術を活用し、グループでの制作に取り組む。この制作活動を通して、社会に出て仕事をする上で必要なコミュニケーション能力を実践的に身に付けていくこと、実装力を養い仕事に活かせる技術力にしていくこと、AI分野の技術動向を自分たちで調べ開拓する力を得ること、プロジェクトに対し適切な役割分担をし、プロジェクトを協力して推進する能力やマネジメントできる能力を育むことなどを目的とする。											
成績評価方法											
試験・課題 50% 制作物（制作内容、展示パネル、発表資料、ドキュメントを含む）を総合的に評価する レポート 20% 授業終了時に提出する進捗報告書の記載内容および提出状況进行评估する 成果発表 20% クラス発表、卒業展発表（デモ展示を含む）について評価する （口頭・実技） 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
卒業制作は、必ず2名以上のグループで行うこととする。学校所有の機材などが制作に必要な場合は申請により使用することもできるが、他の授業での使用が優先される。計画と分担をしっかりと決めて協力して進めること、遅刻や欠席をしないこと、提出物は期日を守り必ず提出すること。評価は基本的にグループ単位で行うので、グループ全体で責任を持って活動すること。尚、授業時数の4分の3以上出席しない者は評価対象としない。											
教科書教材											
各自で必要に応じて書籍を用意する											
回数	授業計画										
第1回	卒業制作の実施趣旨、目標、進め方、および評価方法を理解する。グループが決定する。										
第2回	制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術を列挙する。										
第3回	調達機材や、制作期間や、技術要素などの観点から、実現性があるかどうかを調べる。										
第4回	中間発表までの計画が作成できる。										
第5回	計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットを出す。										

2022年度 日本工学院専門学校	
A I システム科	
卒業制作	
第6回	計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットを出す。
第7回	プレゼン資料やP Vの作成、デモの準備をし、リハーサルを行い、発表を行う。
第8回	制作物が完成するまでの計画を作成する。
第9回	計画に沿って、詳細設計、製造、品質評価などを行い、アウトプットを出す。
第10回	計画に沿って、詳細設計、製造、品質評価などを行い、アウトプットを出す。
第11回	計画作業に加え、進捗会議を行い、プロジェクトの状況を把握し、必要に応じ対策を講じる。
第12回	計画に沿って、詳細設計、製造、品質評価などを行い、アウトプットを出す。
第13回	計画作業に加え、進捗会議を行い、プロジェクトの状況を把握し、必要に応じ対策を講じる。
第14回	プレゼン資料やP Vの作成、デモの準備をし、リハーサルを行い、グループ毎に制作物の発表を行う。
第15回	成果物の整理・集約を行い、提出を終える。